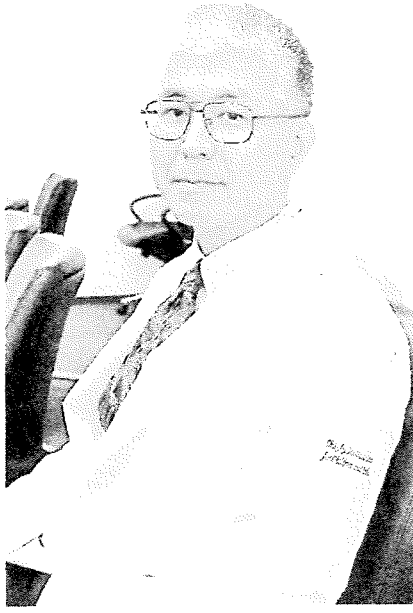


四国こどもとおとなの医療センター
内科系診療部長 近藤秀治氏

香川の医療最前線



●こんどう・しゅじ 1994年徳島大医学部卒。同大医学部付属病院 ウィスコンシン大マディソン校、徳島大大学院ヘルスパイオサイエンス研究部などを経て、2016年から現職。日本腎臓学会専門医・指導医、日本小児科学会専門医・指導医。徳島市出身。47歳。

■ 四国こどもとおとなの医療センター小児腎臓内科

さまざまな腎疾患について血液、尿、超音波検査や腎生検を行い、適切な治療で腎不全への進行を防ぐ。

住所：善通寺市仙遊町2-1-1
電話：0877(62)1000
http://www.shikoku-med.jp/

慢性腎炎の中で、患者数が最も多いIgA腎症。好発時期は小学校高学年から高校生にいたる10代で、放置すると数年から数十年で腎不全まで進行する恐れがある。四国こどもとおとなの医療センターの近藤秀治内科系診療部長に、症状や治療法などを聞いた。

ある。いずれも自覚症状が乏しく、学校や職場での検尿で異常が見つかるケースが多い。どのタイプの疾患かは腎生検で判断しなければ分からない。腎臓を細い針で刺し、組織の一部を採取して顕微鏡で観察する。

「寛解」を目標にして、基本的には投薬で炎症と免疫異常を抑える。病気の進行状況に応じて薬剤の種類や投薬方法を決めていく。

原因不明、10代に多発

原因不明、10代に多発 検尿異常は必ず受診を

慢性腎炎とは、一つの疾患ではなく、腎臓内で、体の免疫作用が過剰に働いて炎症が起きる疾患の総称だ。蛋白尿や血尿が長期間続いて病状がゆっくりと進行し、最終的に腎不全になる恐れもある。腎臓の中の、毛細血管が集まった糸球体と呼ばれる器官が炎症を起こすため、慢性糸球体腎炎とも呼ばれる。

慢性腎炎の中で最も発症数が多いのがIgA腎症だ。IgA腎症とは、気管支や腸の粘膜を細菌などの外敵から守るIgAという抗体が、何らかの原因で糸球体に沈着し、炎症が起きる。病因は現在も分かっていない。小学校高学年から中高生で多く発症すればならない。

■IgA腎症の主な治療法

投薬治療で「寛解」を目指す

症状が…

軽度の場合	進行している場合
降圧薬	○ステロイド薬
抗血小板薬など	○免疫抑制薬など

検尿異常は速やかに専門医へ

早期発見のために気をつけることは、日本では1974年から学校検尿が始まり、現在ではIgA腎症の7割が早期に見えてくる。成人の場合も健康診断の尿検査で見つけることがほとんどだ。尿の異常があれば放置せず、速やかに専門医を受診してほしい。